

持続可能な観光資源の存続に向けて ランチウェイの次の展開



 **KIRAWAY**
北根室ランチウェイ

北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院
(奥田、塚越、野竹、李、原)

発表の流れ

- 中標津・キラウェイの概要
- フィールドワーク前後の感想
- 課題発見
- 解決策提案
- まとめ

【中標津の概要】

- 位置：北海道の東部、根室管内の中部
 - 町域：東西約42km、南北約27km
 - 面積：68487平方キロメートル
 - 気候：内陸性の気候
 - 気温：夏の平均気温は20℃前後
冬の平均気温はマイナス10℃前後
 - 人口：23,379人
(男性11,496人 女性11,883人)
※2020年1月末基準
平成24年から少しずつ減少中
 - 地域の基幹産業：
農業、建築、商業（小売、卸売）
 - 格子状防風林
大きさ・・・15000ha
- 中標津町・別海町・標津町・標茶町の4町



出処： <https://kaiyoudai.jp/jp/>



出処： <https://kurashigoto.hokkaido.jp/>

北根室ランチウェイ（通称：KIRAWAY）とは？



中標津から北根室まで続く広大な牧場地帯(ランチ、RANCH)を通り、摩周湖を周る全長71.4kmのロングトレイル(長距離自然歩道)です

北根室ランチウェイ オフィシャルHPより

KIRAWAY
北根室ランチウェイ



KIRAWAY
北根室ランチウェイ

キラウェイの歴史と意義

- 北根室の**広大な牧場地帯（ランチ、ranch）**を歩いて通ることと、中標津の雄大な自然景観だけでなく、**酪農家の牧場を近距離で**楽しむことができる。
- キラウェイの創始者である**佐伯さん**が2005年からコースの整備を始めて、現在に至るまで数名のメンバーと共に維持してきた中標津の観光目的地。
- 健康づくりへの関心が高まっている昨今、**「歩く」と「観光」を融合させた歩く観光のコース**として、美しい自然と地域の基幹作業である酪農の牧場地帯を活用した**観光資源としてのポテンシャル**を有している。
- 日経TRENDY2012年12月号で「ロングトレイル」が取り上げられてから注目がたかまり多くの人々が訪れるように。そのことで**酪農家さんを中心に地元から様々な声**が上がるようになる

2019年 10月25日（金）～27日（日） 中標津でのフィールドワーク

【10/25（金）滞在1日目】

- ◇午前 中標津到着。役場訪問。
中標津の状況について説明を受ける
- ◇午後 開陽台から佐伯農場までステージ2を
トレッキング



【10/26（土）滞在2日目】

- ◇午前 関係者聞き取り（今瀧氏、大橋氏、山宮氏）
- ◇午後 交通センターと空港見学。
ステージ1の一部をトレッキング



【10/27（日）滞在3日目】

- ◇午前 モアン岳周辺（ステージ4）を
トレッキング
- ◇午後 役場にて発表まとめ&仮発表



2020年 1月9日（木） & 10日（日） 中標津での追加調査

【1/9（木）滞在1日目】

- ◇10:30 中標津町役場
- ◇11:30 中標津町農業協同組合にてヒアリング
- ◇12:00 佐伯農場 冬のランチウェイ（モアン山周辺）視察

【1/10（金）滞在2日目】

- ◇9:00 中標津観光協会。観光協会から見た「歩く観光」についてヒアリング
- ◇11:00 中標津町役場 町民生活課 交通センターについてヒアリング
- ◇15:00 LAUKIKA（ラウキカ）にて 一般市民にとってのKIRAWAY
- ◇16:00 COSMO SCIENCEにて、設立予定のNPOについてヒアリング



【中標津に来る前の印象】

- ◆今のままだとKIRAWAYが**消滅**する可能性が大きい
- ◆KIRAWAYの存在に、様々な立場から反対がある
- ◆存続させていくための次の主体（組織）もはっきり決まっていない
- ◆佐伯さんもそういう状況がいやになり「やめようかな」と言っている
- ◆行政も観光資源としての「KIRAWAY」について組織としては積極的に動いていない

【3日間のフィールドワーク後に訪れた認識の変化】

- ◆反対していた人も、世代交代にともなってだいぶ心を許している（「歩いてもいいよ」という人も出てきている）
- ◆存続するための次の主体もはっきりしているし、観光資源として発展させていこうという想いがある
- ◆佐伯さんも「一歩引く」と言っているものの、それは後向きだからというより、次の世代に任せようと決めたから

- ◆KIRAWAYは消滅するどころか、ますます**発展**する可能性が高い

【発表テーマ】

持続可能な観光資源の存続に向けて
ランチウェイの次の展開



【我々の捉え方】

佐伯さんの作品から、みんなの宝物へ

【参考：佐伯農場で見つけた看板】



【将来目指したい姿】

中標津で生まれ育った子が進学で東京へ。

そこで出会った同級生に「北海道の中標津出身だ」と伝えると
「KIRAWAYのとこだよね？」「いつか歩きたいって前から思ってたんだよね」
と言われる。

「おれさー、小学生の時にちっぴこガイドの資格を取ったんだよね」
「それじゃあ夏休みに帰省するときに一緒に中標津にきて歩く？」と返す。

なんだかちょっと誇らしい。

◆持続的な「歩く」観光資源になるための提案

- 1) KIRAWAY憲章作り
- 2) 拠点作り（交通センターを交流センターに）
- 3) 地域の人が歩く仕掛けづくり
- 4) 防疫への徹底的な取り組み
- 5) メディアを使ったPR
- 6) 収益源の確保

→KIRAWAYが地域の宝、みんなの宝へ

◆ 「KIRAWAY 憲章」 作り



(みちしるべ)

「KIRAWAYの道標」



- 100年先も、ずっと変わらず大切にすること
- KIRAWAYの「あり様」に誰も迷わないように
- 運営団体、行政、観光協会、商工会、JA、PTAの他、KIRAWAYに関心のある人が集まってみんなで制定
- ロゴ・色・フォントなどのガイドラインも制定

【みんなの宝になるための提案その2】

地域への働きかけ

PR／ブランディング

交流・交通・収益化

◆交通センターを利用した拠点づくり



KIRAWAY
北根室ランチウェイ



中標津
空港(根室
中標津空港)

空港～交通センターも
KIRAWAYの一部

車で約10分

中標津町交通センター



は中標津の市街地

500 m

【みんなの宝になるための提案その2】

地域への働きかけ

PR／ブランディング

交流・交通・収益化

◆交通センターの背景

1989年まではJR北海道 標津線 標津駅として利用。

4月30日 JR北海道 標津線の廃止により 廃駅。

現在は、中標津町交通センターとして、中標津町が運営する交通センターになる。（阿寒バス、根室交通、空港連絡バス、町内循環バス）



かつては観光客や町民の
玄関口であった。



【みんなの宝になるための提案その2】

地域への働きかけ

PR／ブランディング

交流・交通・収益化

現在の交通センター

- ・ 車を持たない町民の足としてのバスセンター。
市内循環バス 1日8便。
町民のほとんどが車移動。
- ・ 利用者は町民や通学する高校生、空港まで行く人。
- ・ Wi-fiが使える場所に高校生・中学生は集まるので、
放課後は近くのショッピングセンターで時間を潰している。（交通センターは通過）
- ・ 周辺には、総合文化会館があり、
広場では夏祭りや冬祭りなど市民が集まるイベントがある。
- ・ 現在、テナントが入っているが営業はしていない。



今はあまり
活用されていない。

交通センターを「歩く人の」の拠点にする。

- ・ KIRAWAYの背景説明や、歴史をいつでも知ることができる場所。
- ・ KIRAWAYの地図の設置。
- ・ KIRAWAYに参加した方からのメッセージ（寄せ書き）の展示。
- ・ 歩くための装備等レンタル。
（いつ来ても思い立ったときに歩けるサービスの提供）
- ・ 旅人の荷物預かりサービス。
- ・ お弁当、飲み物などの歩く時に必要なもの等の販売。
- ・ Wi-Fiサービスで、旅人が情報を入手したり計画を立てる場所にする。

拠点を設置することで得られる波及効果

- ・「歩く人」だけではなく、交通センターを利用する町民がバスの待ち時間などで、KIRAWAYのことを知るきっかけになる。
- ・ KIRAWAYに参加した方からのメッセージ（寄せ書き）の展示を見て、客観的に町の魅力を知ることができる。
- ・ お弁当、飲み物などの飲食物を、町民も利用することができる。
- ・ Wi-Fiサービスを町の中高生も使えるようにすることで、若い人も活用する場所になる。

歩く拠点があることで、
町民と観光客をつなげることができる。

【みんなの宝になるための提案その2】

◆交通センターから「交流センター」へ

(拠点として提供したい機能)

ランチウェイの案内

飲食・風呂・宿泊など
街中情報の提供

¥ 衣類・備品・食品の販売
(レインコート、帽子、熊よけスプレー、
チョコレートなど)

¥ 乗合タクシー
※旅行業3種 (中標津観光協会)

¥ 荷物預かり
(コインロッカー)

¥ オリジナルグッズ販売
(タオル、鈴、キーホルダー、マグネットなど)

メッセージ発信&交換
(町民⇄観光客)

写真・映像放映
(オフィシャル動画、インスタなど)



町民と観光客、町民と町民、観光客と観光客が交流する場に

 KIRAWAY
北根室ランチウェイ

【参考：佐伯農場で見たメッセージボード。感謝や感動の言葉が綴られている】



◆地域の人が歩く仕掛け作り

- 1) 図工や総合学習の時間を利用した、子どもたちの「道標」作りと道への設置
- 2) 町内全小中学校での遠足化
- 3) 季節に合わせたイベント（例「ハロウィンみんなでぞろぞろ仮装ウォーク」
- 4) 芸能人や有名人と一緒に歩くイベント
- 5) キャンプ場に宿泊した人向けの「ステージ1を歩こう」ちびっこツアー
- 6) 町民ガイドの育成（ちびっこガイドも）

【子どもたちが歩きやすいコースを限定】



歩きやすい距離、歩きやすい起伏、美しい景色、トイレの複数設置、もしもしBOXの設置、子どもたちのアート展示などを集中！

→遠足で歩きやすいコースに

→子どもにとってのKIRAWAYの入り口に

KIRAWAY
北根室ランチウェイ

【参考：子どもたちの作った道標をKIRAWAYの一部に】



 KIRAWAY
北根室ランチウェイ

◆安全安心の環境作り

1) KIRAWAY各地に過剰気味では？と思える防疫設備

2) 空港での防疫体制の徹底（行政への働きかけ）

Q.なぜ防疫が必要…？

→基幹産業である酪農を守るため！

酪農家さんたちの懸念

- ・ 観光客によって病原体が持ち込まれること
- ・ 観光客が歩き回ることによって病原体が広まること

(参考)現状の防疫体制

- 国が法律を制定し、実務は各都道府県に一任
- 空港で国外からの持込対策はあるものの、実情は発生地域から、媒介生物に接触したと自己申告した人のみ
- 北海道としての対策は入国者・各農家への呼びかけ
- 国や道が動いてくれるのは問題が発生してから

⇒自分たちでの対策が肝要！

参考

農林水産省HP：https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/quarantine_beefup.html

北海道庁HP：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/tss/kachikueisei/fmd3.htm>



(参考)オーストラリアの例

- 獣医師や友人を含む**すべての人**が病気の運び手となり得るという危機意識
- 外国からの飛行機などは消毒をしてから乗客を降ろさせる
- 海外からの食べ物、植物、動物などの持ち込み禁止。
- 6日以内に海外の農場などに行ったものはすべてが消毒
- 訪問者に消毒の必要性の説明、署名もしてもらう
- 靴の消毒、できない場合靴や服の貸し出しもするよう喚起。バグゲージに入っている靴に土がついていれば没収



「本気で防疫を行っている＝町の産業基盤保護や、歩く観光資源であるKIRAWAYの持続的発展に真剣に取り組んでいる地域」というブランディングにつながり、それが地域に暮らす人や地域を訪れる人からの信頼や安心感を生む

参考 <https://www.farmbiosecurity.com.au/essentials-toolkit/people-vehicles-equipment/>

◆メディアの活用

1) FMなかしべつを利用して、KIRAWAYをPR

遠足の様子

イベント告知

イベントの様子

草刈りの様子

観光客
インタビュー

町民
インタビュー

交通センター
の様子

防疫のPR

2) 地上デジタル7波を利用した町民放送を開始。KIRAWAY番組を作りPR

オフィシャル
PR動画

新緑・紅葉・雪の
KIRAWAY

ガイド育成講習の
様子

¥ CMで収益も

参考：枝幸町情報基盤施設：平成23年4月1日の開局以来、地上デジタルテレビ・BS110° CS放送を町内全世帯に同時放送。議会の様子や行事の様子、町からのお知らせなどを放送している

【参考：中標津町内全家庭の地上波で視聴可能に】

PR／ブランディング

収益化



 **KIRAWAY**
北根室ランチウェイ

◆持続可能な観光資源にするための収益源

【KIAWAYクラブ】

歩道のメンテナンスや自然環境の保全、防疫対策のために1人年会費3000円。
会員2000人を目指す。会員になると佐伯さん考案のグッズが届く

オフィシャルガイドブック販売

入山料（スタンプカードアプリと連携）

オフィシャルグッズ販売

KIRAWAY祭り参加費

ガイド料

交流センターでの収益

組織

防疫対策

ビジョン

イノベーション
ブランディング

お

持続可能な
観光資源

交流

地域の
働きかけ

地域の
合意

土地利用の
グレーさ
解消

交通

KIR▲WAY

北根室ランチウェイ



 KIRAWAY

北根室ランチウェイ



御静聴ありがとうございました

**北海道大学大学院
国際広報メディア・観光学院
(奥田、塚越、野竹、李、原)**